

革新の遺伝子

京都企業の挑戦

● 60 ●

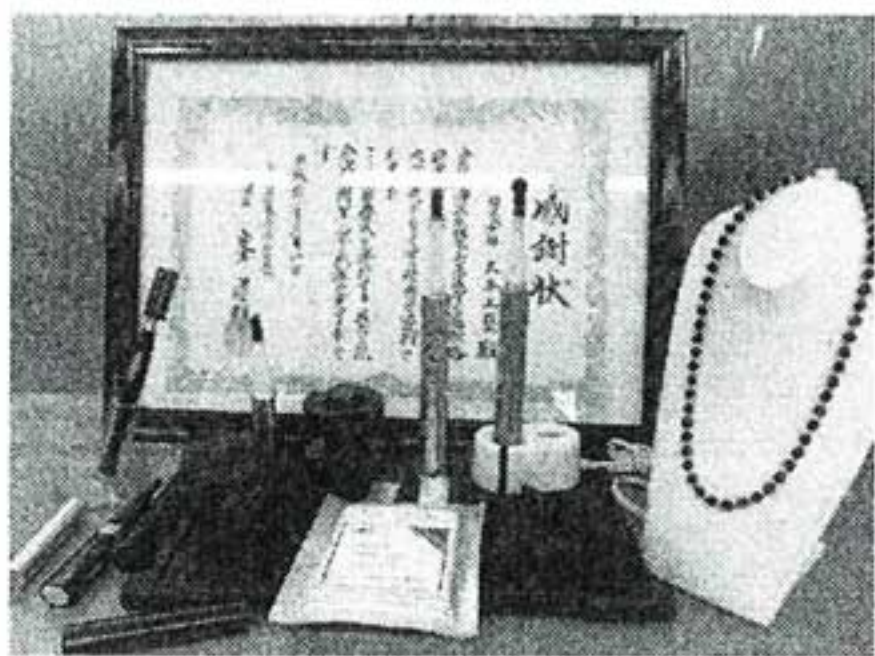
美容・健康、治療、環境、エネルギー、装身具、建材、住宅資材、食品・調理。大木工藝はさまざまな分野のアイデア商品で、成長を続けている。一見、脈絡がないように見えるが、横串で貫いているのは「炭素」の高度な技術だ。

線放射に優れる超高密度炭素から製造するフィルム状の薄いシート。これまでに建材用や住宅資

材、保冷用途などに適する素材として、用途開発してきた。同炭素の玉からなるネックレスは、遠赤外線線の保温効果や安全性を認定され、供給先の宝飾品メーカーが700万個も売り上げるヒット商品に育った。

大木工藝

炭素の商品開発に意欲



は「京都は当社にとって事業の基盤」と強調する。当初は京都で設立し、工芸用樹脂の事業を手がけていた。ただ、京都では適した工場用地を得られなかったため大津市に工場を建て、その後本社も大津に移した。しかし、京都商工会議所や

炭素から開発したさまざまなアイデア商品。企画開発に専念した。こうしたアイデアを龍谷大学や立命館大学、京都府立医科大学、関西大学などで持ちかけ、産学連携で共同開発する事業モデルを巧みに築いてきた。

「炭素を新たなビジネスに生かせないか」(大木社長)と考え、思い切った業容転換した。炭素ビジネスでは工場に陥っていた。そこで、開発中のものも含めれば美顔ローラーや歯茎



大木 社長

創業者の大木武彦社長

京都産業21、京都市高度技術研究所など公的機関から補助や支援を受けるなど、京都とのパイプは今も強い。京都には研究室を構え、「2013年

中にも本拠地を京都に戻したい」と打ち明ける。炭素製品の事業に転じたのは、樹脂の廃棄物を無害化処理する際に生じる炭化物がきっかけ。そ

「炭素を新たなビジネスに生かせないか」(大木社長)と考え、思い切った業容転換した。炭素ビジネスでは工場

マッサーシロラー、調理器、キャパシターの素材、こりを緩和する医療機器の炭粒など、多種多様にわたる。商品はメーカーにOEM(相手先ブ

△社長 大木武彦氏▽所在地(研究室) 京都市上京区河原町今出川下る梶井町448の5、075・741・7688▽従業員 13人▽事業 炭素商品の研究開発▽設立 70年(昭45)4月(隔週木曜日に掲載)